Fuji Students

「死」から「生」へ――
生かされた女子学徒隊

沖縄戦で激戦の南部に従軍した女子学徒隊のほとんどが大勢の死者を出した。
しかし、3名の戦死者にとどまった女子学徒隊があった。
それは、なぜか… 元学徒隊のインタビューを主軸に、戦場での生と死をめぐる思いを描いた。

ふじ学徒隊

映文連アワード2012文部科学大臣賞受賞作品

短編ドキュメンタリー映画

監督 野村岳也

製作・配給　海燕社　助成：文化芸術振興費補助金

「かならず、生き残れ。親元へ帰れ」。
「絶対に死んではならない」。

小池勇助隊長の最後の言葉より

この作品は、16才の少女たちが生と死のはざまに生きた
三ヶ月余の彼女たちの記憶の記録である。
少女たち一人一人を通して、生きるとは、死ぬとはどんなことかを考える時、
戦争がどんなに非情なものかが浮彫りになるであろう。

隊長の最後の言葉を胸に生きることを選んだ彼女たちの記録

1945 年、沖縄は史上最大の悲劇に遭遇した。沖縄戦である。わずか三ヶ月の間に二十万を越す人々（内、半数が県民）の命が奪われた。懐かしい街や村、美しい野や山は見るも無残な焦土と化した。

あの時から半世紀がすぎ、今は見事に復興した。しかし、永い歳月は戦争の記憶を人々の心から次第に消し去ろうとしている。

かつてふじ看護学徒隊 25 名が配属された山部隊第２野戦病院は豊見城城址にあり、ここが彼女たちの青春をかけた戦場であった。

隣接した丘に海軍の司令部壕が構築されていた。船を失った海兵は、軍命令により、ここで最後まで戦況報告電報を打ち続けるのである。野戦病院壕には、中部戦線から大勢の傷病兵が送りこまれ、凄絶な治療看護活動が続いた。戦況が悪化した二ヶ月後、南部の糸洲壕へ後退する。そして一ヶ月後、解散命令が下った。

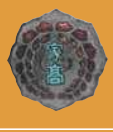
戦後の彼女たちは――――――――
今は亡き愛する人々へ鎮魂の旅がはじまった。
そして、必死に生き抜いた。

「平和を祈って」
（積徳高等女学校
昭和20年卒記念誌）

上原利子、小波津照子、田崎芳子らが中心となって編集、1993年に出版された元学徒隊ら渾身の戦争体験集。この本が映画の基となった。

ふじ学徒隊とは…。

沖縄戦で動員された女子学徒隊は10校およそ500人。激戦の本島南部では、ほとんどの学徒隊が半数近くの戦死者を出した。そんな中、3名の戦死者にとどまったのが「ふじ学徒隊」である。1941年ヘチマ襟の制服を着た積徳高等女学校の1年生。しかし、彼女たちは一度も憧れのセーラー服を着ることはなかった。



積徳高等女学校の校章。大正7年私立家政女学校として設立。以来変遷を経て、昭和18年積徳高等女学校となる。戦後廃校。校章にふじの花が刻まれている。

- 監督：野村岳也
- 【証 言】仲里 ハル／宮城トヨ子／宮城 喜久子／田崎 芳子／渡久地 敏子／名城 文子／真喜志 光子／真喜志 善子／平良 ハツ／嘉手納 米子／新垣 道子／大城 正祺
- 【製 作 委 員 会】
  宮城 鷹夫／福地 曠昭／安仁屋 政昭／星 雅彦／海勢頭 豊／古謝 将嘉／新垣 道子、与儀 尚子、城間 妙子、玉盛 照子（ふじ同窓会）／澤岻 健、城間 あさみ、野村 岳也（海燕社）
- 海燕社（カイエンシャ）：〒901-0235 沖縄県豊見城市字名嘉地60番地Ｂ-1　TEL：098-850-8485　FAX：098-851-3553　URL：http://www.kaiensha.jp　E-mail：mail@kaiensha.jp
- 「ふじ学徒隊」公式ホームページ　http://fujigakutotai.com　E-mail：info@fujigakutotai.com

上映日時：令和８年3月19日（金）午後7時～（上映時間：約50分）
上映場所：伊江村はにくすにホール
入 場 料：無料
主　　催：伊江村教育委員会